

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—76843

⑪Int. Cl.²
A 41 H 31/00識別記号 ⑫日本分類
123 C 6庁内整理番号 ⑬公開 昭和54年(1979)5月31日
6849—3B

審査請求 未請求

(全 1 頁)

⑭ゴムひも引通し用具

豊田市大島町星ヶ丘9—3 ト
ヨタ住宅9201号室

⑮実 願 昭52—149891

⑯出 願 人 トヨタ自動車工業株式会社

⑰出 願 昭52(1977)11月8日

豊田市トヨタ町1番地

⑱考 案 者 長島照夫

⑲代 理 人 弁理士 飯田堅太郎

⑳実用新案登録請求の範囲

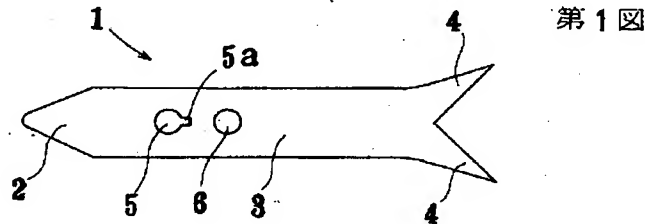
板状に一体成形され、中央部にひも通し穴を複数個穿設し、流線形の前端部の後方に進行方向に長い胴部を連接し、該胴部両側縁には少なくとも1組の爪が設けられ、該爪は斜後外方に向かう鋭角端を有するように形成されたゴムひも引通し用

具。

図面の簡単な説明

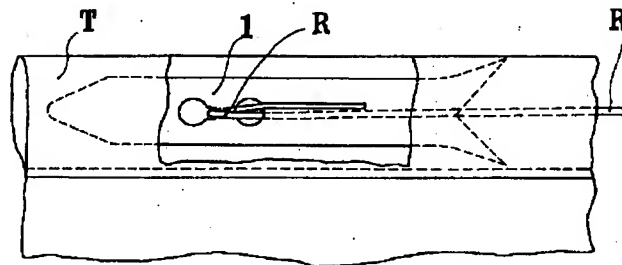
図はこの考案の実施例を示し、第1図は正面図、第2図は使用状態を示す一部断面正面図である。

1……ゴムひも引通し用具、2……前端部、3……胴部、4……爪、5、6……ゴムひも繫止穴。



第1図

第2図





実用新案登録願²

52.11.8

昭和 年 月 日

特許庁長官

殿

1. 考案の名称

ゴムひも引渡し用具

2. 考案者

愛知県豊田市大島町屋ヶ丘9-3

住所氏名

長島 照夫 トヨタ住宅9201号室

3. 実用新案登録出願人

住所氏名(国籍)

愛知県豊田市トヨタ町1番地
(320) トヨタ自動車工業株式会社

4. 代理人

〒466 460

代表者 豊田 章一郎

中区栄二丁目11番18号 ヤシマリオンビル

住所氏名

愛知県名古屋市昭和区新栄町2丁目7番地
(6552) 弁理士 飯田 堅太郎

5. 添付書類の目録

- | | | | |
|-----|------|---|---|
| (1) | 明細書 | 1 | 通 |
| (2) | 図面 | 1 | 通 |
| (3) | 願書副本 | 1 | 通 |
| (4) | 委任状 | 1 | 通 |

54-76843

方式

52 149891

52.11.9

明 細 書

1. 考案の名称

ゴムひも引通し用具

2 実用新案登録請求の範囲

板状に一体成形され、中央部にひも通し穴を複数個穿設し、流線形の前端部の後方に進行方向に長い胴部を連接し、該胴部両側縁には少なくとも1組の爪が設けられ、該爪は斜後外方に向かう鋭角端を有するように形成されたゴムひも引通し用具。

3. 考案の詳細な説明

この考案はゴムひも引通し用具に関する。

衣類や袋類に設けられたゴムひもを通す長い筒にゴムひもを通すのに、従来は棒状の用具が使用されていた。かしながら、ゴムひもと衣類や袋類の筒とは摩擦抵抗があるため引通し作業中に引通し用具に繫止されたゴムひもの後続部はスムーズに筒内を通つてこないでゴムひもは伸ばされて張力を発生する。このときゴムひもの後続部が通つてくるように処理しなければならないが、こ

の処理を両手で行なうとすれば引通し用具から手を離すこととなり該用具はゴムひもの張力で後退し、それまでの作業が無駄となり、また、引通し用具を手から離すことなく前述の処理を行なうことは困難で熟練を要する作業であつた。

この考案は上述にかんがみて、熟練を必要としないで誰でも簡単に引通すことができるゴムひも引通し用具を提供するものである。

この考案の要旨は前端は流線形で、その後方に進行方向に長い胴部が連設され、中央部にはひも通し穴が複数個穿設されて胴部の両側に少なくともノ組の爪を設け、爪は斜後外方に向かう鋭角端を有するように、かつ全体を板状に一体的に形成するものである。

以下この考案の図例について説明する。第1図においてゴムひも引通し用具1は一般に合成樹脂によつて板状に一体成形され、前端部2は衣類や袋類のゴムひも引通し用筒の内部をその通路を開いて前進容易なように流線形に形成され、前端部の後方に連設された胴部3は進行方向に長い長方

形に形成され、該胴部後端の両外側には爪4、4が対称的に設けられ、爪4は斜後外方に向かう鋭角端を有するように形成されている。符号5、6はゴムひも繫止用の穴で、穴5の内周後部にはゴムひもの繫止を確実にするためのキー溝様の切欠き5aが設けられている。

次にこの考案の用具の作用を説明する。ゴムひもRを第2図に示すように穴5、6に繫止して、衣類または袋類のゴムひも引通し筒T内を通常の操作要領でゴムひも引通し用具ノを前進させる。この作業の途中前述したように、後続のゴムひもが引通し筒の内面との摩擦抵抗によつてゴムひもがスムーズに通つてこないでそのため、用具ノに繫止された付近のゴムひもが伸びて張力が発生し用具ノの前進に困難になつたときは用具ノから手を離してゴムひもの後続部が通つてくるように両手で処理する。この場合手から離れた用具ノは伸びたゴムひもRによつて後方へ引かれるが、爪4の鋭角端が筒Tの内面に鉤束されるので後退することなく、前述の処理後直ちに停めた位置から再

び前進させる。

この考案によれば、上述のように、ゴムひも引通し作業途中ゴムひもの後続部が引通し筒との間の摩擦力で進行を阻害され、そのためゴムひもが伸ばされて張力が発生した場合において、用具から手を離しても、用具の爪がゴムひも通し筒の内に鈎束されて止まるので進行を阻害された部分のゴムひもを通すように処理する作業に両手を使用することができ、誰でも容易にゴムひもを引通すことができる。

なお、上述の実施例では爪は最^上端部に1組のみであるが、爪4、4の前方において、胴部3の両側に複数組の爪を設けることができる。なおまた、この考案は上述の説明及び図例に制限されることなく、この考案の技術的思想から逸脱しない範囲においてその実施態様を変更することができる。

(字加入)

4. 図面の簡単な説明

図はこの考案の実施例を示し、第1図は正面図、第2図は使用状態を示す一部断面正面図である。

。

1 … ゴムひも引通し用具、2 … 前端部、3 … 胴部、4 … 爪、5、6 … ゴムひも繫止穴。

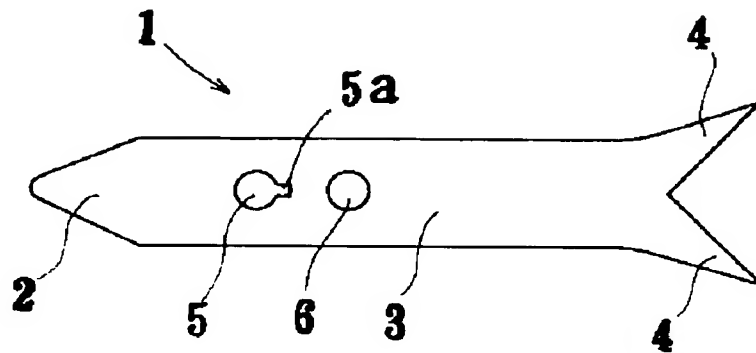
実用新案登録出願人

トヨタ自動車工業株式会社

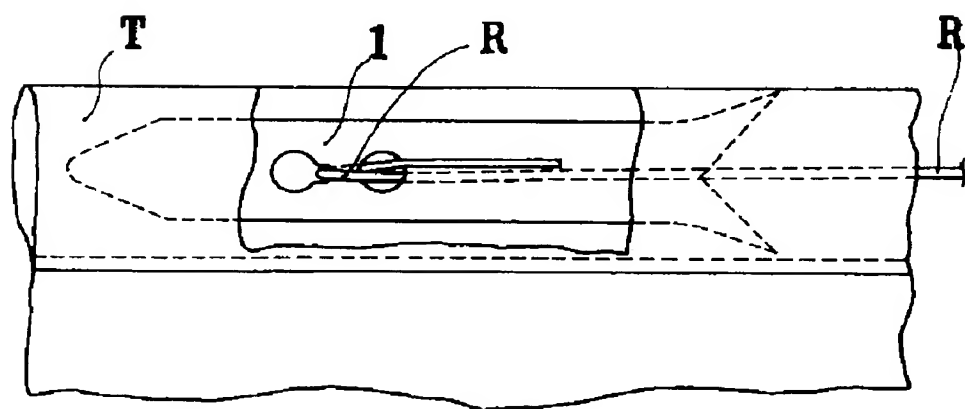
代 理 人

弁理士 飯 田 堅 太 郎

第 1 図



第 2 図



車工業株式会社
太 郎

76843